

災害医療訓練を実施しました。

本院では、基幹災害医療センターとして初めての災害医療訓練を3月10日（土）に実施しました。当日は、医師・歯科医師・看護師・技師・事務スタッフなど総勢約150人が参加し、本番さながらの緊迫した状況の中、真剣に訓練に取り組みました。

基幹災害医療センター

新潟県では長岡赤十字病院と本院の2カ所が指定されている、災害時の医療拠点。

平時での災害訓練の実施も、重要な役割の一つです。

訓練は、平日の昼間に病院近隣で爆発事故が発生し、多数の傷病者が搬送されたという想定で外来棟を舞台に行われました。実際にトリアージ等を行う実践型訓練と、ホワイトボード等を現場に見立てて行う机上型訓練を組み合わせ、本学医学部保健学科の学生に患者さん役を演じてもらうなど、限りなく本番に近いリアルな訓練となりました。



外来玄関ロビーに設置されたトリアージポスト。患者さんはまずはここで重症度に応じて赤・黄・緑・黒エリアに振り分けられます。

机上訓練とはいえ、現場から緊急連絡がひっきりなしに入る後方部門も真剣です。



最重症患者が運び込まれる赤エリア



狭い廊下で患者さんの渋滞が起こってしまうことも。

ガーゼや包帯などの医療材料も、本物を使用して行いました。



大規模災害時の実際の院内の対応を想定した今回の災害医療訓練に対して、参加者からは「災害時の本院の役割が再認識できた」「部門間の連携や非常時の運用等、今後の課題が明確になった」等の感想が寄せられ、非常に実りの多い訓練となりました。

本院では、今後も訓練を続けることで基幹災害医療センターとしての使命を果たしていきます。